

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ゆうかり
(ユニット名)	ユウカリ
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市吉野町5400-1
記入者名 (管理者)	野崎 慎也
記入日	平成 20年 10月 19日

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	餅つき大会やミニ・コンサートの地域交流会を開き地域の方々に足を運んで頂いている。又、日常でも地域の行事に参加し、買い物に行く際も入居者の方と行っている。	○ これからも地域の方々と交流を持ちながら、共に支え合っていきたい。フリーマーケット、バザー等を開催しグループホームがより身近になる様、取り組んでいきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者の方々に居心地良く、安心して生活を送って頂ける様、定例ミーティング等で話し合いをしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や訪問者にも理解してもらえよう、玄関に理念を貼り出してあるが、徹底されていない所もある。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買物・ゴミ出しの際に、挨拶をかわすことはあるが、特別立ち話をするのではない。	○ グループホームというものを少しでも理解してもらえよう、地域交流会を開催し地域の方々に参加してもらえよう、日頃からコミュニケーションを取っていききたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域交流会を開き、地域の方々と交流を深める機会をつくっている。又、地域のお祭りにも参加させて頂き、交流を深めている。	○ 自治会に入れて頂ければ地域の催しにももっと参加でき、交流を深めていくことができると思う。しかし、開設時から自治会に入れて頂けるよう、要望しているが入会させて頂けず。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	餅つきなど高齢者に馴染みのある行事を開催し楽しんでもらっている。又、地域にある他のグループホームと連携し地域に役立つことが出来ないか話し合いを行なっている。	○ 高齢者介護・在宅介護での問題について一緒に考える会など開ければ在宅の方の力に少しでもなれるのではないか。また、運営推進会議では地域住民の方もいるので事業所として何が出来るのか話し合っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を基にミーティングや運営推進会議等で話し合い、問題解決に取り組んでいる。	○ 改善点に対しての定期的な見直しを行なう。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容はその都度検討して取り上げている。スタッフ全員が交代で出席し、周知徹底を図り、自己評価・外部評価の評価報告を行い、アドバイスを頂いている。	○ 会議に自治会の方も参加してもらい更に関係作りを行なう。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課や地域包括支援センターと連携をとり、情報交換等が出来るよう、こちらから働きかけていきたい。	○ 地域包括支援センターと連携をとり、情報を収集し、サービスの質の向上を目指したい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の中に成年後見制度を使っている方もおられる。また、身寄りのない入居者の方がおられた際にミーティング時にスタッフ全員で学ぶ機会を持った。	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学ぶ機会があり、ミーティング時に全スタッフに伝達し、学ぶ機会を設けている。	○ 行動や入居者に対する発言等、スタッフ間でも注意しあえる環境を整えていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際は必ず、管理者が家族に契約書に関する説明を十分に行っている。また、質問や疑問に思うことがないか尋ねている。納得された上で契約書に捺印を頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の生活の中や入居者との会話の中で改善しなければならないようなことは、ミーティング時等を使いスタッフ間で話し合いを行っている。又、御家族が来所された際にも御家族からの意見を聞くよう努めている。	○ 認知症の方はうまく表現することが難しいので些細なことでも、汲み取る様注意し、運営に反映させていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、利用明細と一緒にゆうかり通信もお渡ししている。ゆうかり通信には各担当スタッフが受け持ちの入居者の一ヶ月間の生活の様子を記載する様、努めている。又、必要なことはその都度電話にて報告を行っている。	○ 御家族にも入居者の生活を知って頂く為にも継続していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回の家族会を設け意見を聞ける環境を整えている。又、運営推進会議でも御家族に参加して頂いており、意見を聞くことができる。運営推進会議に参加されない家族の方からは、来所時に意見交換をするよう、努めている。	○ 家族会などの人が多い場では発言が難しいこともあり、面会の時などに話しやすい雰囲気を作り、日頃からコミュニケーションをはかり、信頼関係を築いていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の定例ミーティングで話し合いを行っている。必要なことがあればその都度、話し合いを行っている。	○ これからも定例ミーティングは継続し、質の向上に努めたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員間で話し合い、必要があれば勤務交代を行っている。また、特別な状況がある場合は、多めの勤務配置を行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず異動や離職をする場合は必ず、時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。	
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加・院内の勉強会を開き、知識・技術の向上に努めている。又、通信教育を受けたい職員がいる場合は、応援を下さる。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉野町で運営しているグループホームのスタッフで3ヶ月に1回交流会を行っている。また、地域交流会を開催し、他のグループホームの事業所にも声をかけ参加を頂いている。	○ 交流会をより発展させ、更に相互関係を向上し、同じ悩みを共有する場にしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に1回、法人内の忘年会を開催している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が研修や通信教育を受ける際は快く許可を下さり、応援を下さる。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	コミュニケーションの機会を多く持ち、心理・身体状況を把握出来るよう努め、求めていることに対応できるよう、努めている。	○ 必要な時に必要なことが出来る体制を整えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回の担当者会議の時などに家族の真の思いを聴けるように努めている。また、初めて来所される際に話しを聴くよう、努めている。	○	家族がどのような思いで入居を決められ家族の置かれている状況をスタッフ全員が周知できるよう情報を共有していきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に必要と思われることは伝え、他の相談機関や事業所にも問い合わせを行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を行い、集団生活などに対応出来るか職員間で話し合い、見極めを行っている。また必要があれば、御家族へ連絡を取り、相談をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や掃除・洗濯物をたたんだり、日々の生活を送る中で共に学びあう関係を築いている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加を呼びかけ共に喜び合える機会を設け、面会時等で本人の近況を報告し、入居者にとって最善の方法を選択している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時は居室で静かな雰囲気の中でゆっくりと過ごして頂けるよう配慮し、行事にも参加を促している。しかし、特定の御家族しか参加して頂けない。	○	外出や外泊の機会をもっと設けて頂けるよう、呼びかけを行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイケアに通っていた入居者の方が多く、デイケアで付き合いがあった方たちとデイケアの催しがある時など交流の機会を設けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士のトラブルがあった際は、職員が間に入り対応している。また個別援助の必要性と同時に昼食後、入居者と一緒にゆったりとした雰囲気の中でコーヒーを飲みながら一人ひとりの思いを汲み取るよう、支援を行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	地域交流会などがある際は、呼びかけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で意見や希望を尊重し、個別援助に取り組んでいるが、状況によってはできないこともある。またミーティング時に職員間で情報を共有し、個々の希望に沿った生活を送ることができるよう、取り組んでいる。	○	個々に合った援助が出来るよう、努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中で本人から話しを聞いたり、面会時に御家族から話しを伺うことがあり、記録し把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の中で個々の生活リズムを把握できるよう、申し送りや連絡ノート、個人記録等に記録を残しスタッフ間で共有できるよう、努めている。	○	大体の生活リズムは把握できるが、入居者のレベル低下、認知により日々変化する為、継続して経過をみていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定例ミーティングで問題を取り上げ検討している。必要時は、申し送りの時などにも検討している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランに対して毎月1回のモニタリング支援経過を記録し、必要時は話し合いを行い、ケアプラン見直しをしている。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日勤・夜勤帯それぞれの記録を行い、個別の申し送りノートにも記録し、情報を共有している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	御家族から要望があれば、病院受診も職員が一緒に行き、グループホームでの生活の様子を話している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各公共機関と必要に応じて、協力を呼びかけながら行っている。	○ 運営推進会議等にテーマに合った公共機関の人をメンバーに入ってもらってほしい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームの入居者は他の介護保険サービスを利用できないことから、他のケアマネジャーとの関係作りをする機会がないが、現在、訪問歯科治療や訪問理美容を行い、他のサービスも利用している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	身寄りのない入居者の方がいた際に、地域包括支援センターの方に相談し、助言を頂いた。また吉野町にあるグループホーム同士の繋がりをつくるきっかけを作った。	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医院に併設されたグループホームということもあり、本人や御家族の希望するかかりつけ医となっており何かあるとすぐ受診できる環境になっている。	○ 医院と密に連携をとり、入居者の健康状態を保てる様、また、人生の終末での取り組みの構築に努めていきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	随時、先生に連絡・相談し診断や治療を受けられるよう、体制を築いている。	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	何かあれば併設の医院の看護師がすぐ来れる体制を整えている。また、月に一回受診を行っているので、入居者の様子を良く知っており、その都度指示を仰ぐことができる。	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医院が同敷地内にある為、こまめに入居者の様子を見に行くことができ、病棟の看護師から情報交換を行っている。	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状況に合わせて必要な時は早い段階で家族、主治医・管理者で今後の方向性を話し合っている。またグループホームゆうかりにおけるターミナルケアの指針もある。	○ ターミナルケアの体制の構築が必要であるが、グループホームは在宅であり、家庭にゆるされる準医療行為が認められないのは支障有り。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	変化に応じて定例ミーティングで、医師・看護師と共に話し合いを行っている。	○ グループホーム内で医療行為ができない為、「できること・できないこと」を明確にし、医師・看護師と連携を深めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人・家族を含めて十分な話し合いをし、情報 交換を行い、ダメージを防ぐことに努めている。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない</p>	<p>入居者の性格や生活暦を基に、個人の尊厳、権 利を損ねることのないよう、個人に合わせた声掛 けをし、プライバシーや誇りを守っている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけた り、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる</p>	<p>個々の希望を実現できるよう働きかけている。 自己決定が難しい入居者に対しては、周囲と合わ せた対応を心掛けている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切に、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている</p>	<p>個々のペースで過ごして頂けるよう、支援して いる。また、入居者より外出の訴えがある際はそ の都度、支援している。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行け るように努めている</p>	<p>二ヶ月に一回グループホーム内で行っている。 また行き着けの理・美容室に出かけている。</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>必ず職員と入居者が共に調理を行い、同じテー ブルを囲んで食事を摂っている。また定期的に出 前や外食にも出かけている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎日、晩酌される方もおられ御家族が持って来られる。また、買い物に行った際に、ご自分で食べたいおやつ等を持って来られる。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間を見ながらトイレ誘導したり、排泄チェック表を活用し、個々のパターンを把握するよう努め、失敗しないよう気をつけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を決めているが、他の曜日でも本人からの希望があれば臨機応変に対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活リズムを把握し、なるべくリズムがくずれないように、心がけており、起床、就寝時間は入居者自身に自己決定してもらっている。時間の把握が難しい方には時間に合わせた生活が送れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々の特性を活かして、日々の日常生活の中で役割を持って頂いている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として職員が管理しているが、買い物の時入居者に支払いをして頂くことがある。しかし、お金を持つことで情緒不安定になる入居者もいるため、臨機応変に対応している。	○	外食する時など、支払いを心配されるので支払いの時だけでも、ご自分で払って頂き「自分で払った」という意識を持ってもらえるよう、支援していきたい。


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、ドライブ、外食等定期的に外出しており、入居者からの希望があれば、その都度対応している。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	物産館や水族館、ドライブなど気分転換を兼ねて計画し、外出している。	○ 御家族の参加が少ないため、継続して声掛けしていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者より希望がある際は、御家族へ連絡しすぐに話しができるよう、支援している。	○ 字を書ける方もいるので時々家族あてに手紙を書くことも取組んでいきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問があった時は居室に案内して静かな雰囲気で大切な時間を過ごしてもらえるようにしている。	
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議にて「日々の中で身体拘束はないか」職員で話し合う機会がある。また、マニュアルもありいつでも閲覧できるように資料が置かれている。	○ 定例ミーティングの時などに何ヶ月かに一回は議題にあげ、自分達のケアの見直しをしていき、意識を高めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は窓は開放するよう心がけし、徘徊みられる入居者に関しては職員が注意し見守りを行い、施錠しないよう、努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	少人数で所在把握がしやすく、夜間は定時の巡回を徹底し、日中・夜間の入居者の様子を申し送り時に報告するよう、徹底している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品・薬剤等、危険と思われる物は、入居者に危険がないよう、管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災訓練、勉強会に職員が交替で参加し知識を学んでいる。また服薬に関して不明な点は看護師に確認し、二重・三重のチェックを行っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成してあり、周知している。また事後もミーティング時に取り上げ、話し合いをしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を行い、訓練内容については会議で報告し全職員が知識を持てるよう工夫している。また、運営推進会議でも取り上げ、検討している。	○	運営推進会議でも再度取り上げ、災害の備えをしておきたい。また、実際に消防訓練も取組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	転倒や誤嚥などのリスクの高い方は面会や電話連絡で伝え、その都度、現在の状況を報告するよう、努めている。また、ゆうかり通信にも現状報告を行っている。	○	転倒等リスクの高い方がおられるが、リスクを恐れるあまり、行動を抑制することのないように、御家族と連携をとりながら、対応していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化が見られる場合は申し送りノートや申し送り時に職員間で確実な引継ぎを行い、判断が難しい場合には病棟看護師・医師へ報告し、指示を仰いでいる。	○	急変の場合には即刻、医院へ連絡。急がない場合には毎日の朝礼で報告している。また、朝・夕不定期ではあるが医師の訪問がある。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜勤者が翌日の薬の準備をする際、個別の薬内容が記載されているファイルを見ながら準備を行い、服薬チェック表も活用し、全職員が薬の情報を共有できるよう、努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事において栄養面と消化の良いものを常に工夫し、身体を動かす働きかけに取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行い、個々に合った方法でケアを行っている。また、訪問歯科時に歯科医師から指導を仰いでいる。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	提供している量、残量の把握に努めている。また、食事やお茶の時間以外にも水分摂取に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	法人内で感染対策委員会があり、グループホーム内でもマニュアルを作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限を必ず守り、台拭き用のふきん等は定期的に消毒・除菌を行っている。また、定期的に害虫駆除を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先の花壇に季節の花を植えて明るい感じを作っている。入り口にはベンチも置かれ、くつろぐことができる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、圧迫感がないのでゆっくり、開放的に過ごすことができる。また、フロアには季節の花を飾り、季節を感じる環境づくりをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後や余暇時間に皆で話ができる場所が確保されており、入居者も思い思いに過ごすことができる。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人に合わせた居室づくりを尊重し、職員で居室の清掃を行う際は、本人と一緒にやるよう努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中は窓は開放し、換気を行っている。また温度計を基に入居者にとって過ごしやすいう、空調管理を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	段差がなく手すり・滑り止めもつけ、ゆっくり と一人でも安全で自立した生活が送れるよう工夫 している。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	居室の入り口に表札を掲げ、トイレや浴室と分 かるよう、プレートを掲げている。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	過ごしやすい気候の時は、ベランダを活用し、 昼食を摂ることもある。入居者が外に出られるよ う開放すると、ベランダにて景色を眺めておられ る方もいる。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	② ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	② ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	③ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	③ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	② ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の個々の能力に合わせ、役割を持って頂き意欲的に生活されている。また、入居者の意思を尊重し自己決定の場面が多くあり、個別ケアに取り組んでいる。職員は入居者が楽しく・安心して生活が送れるよう、積極的に研修に参加し、院内ミーティングで伝達講習を行い、知識・技術を活かし支援を行っている。職員・入居者間の信頼関係もあり、入居者の方が困っていることがあれば、本人が気軽にスタッフに尋ねに来られる。また、毎日入居者の大きな笑い声を聞くことができる。